

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

今回は、衣食住や家計、子育てなどについての学習成果を家庭に反映し、心豊かな生活づくりに結びつけている「富士友の会」を紹介します。

富士友の会

富士友の会は、女性月刊誌の読者を中心に構成される全国で百九十三ある「友の会」の一つで、富士・富士宮地区在住の会員から成っているサークルです。現在、七十八人の会員の皆さんが、衣食住や家計、子育てといった日常生活に関する学習のほか、地球温暖化など環境問題を考える活動を行っています。

リーダーの一井明子さん（森島）は、「『最寄り』という地区別のグループが会の基本組織となっています。それぞれがテーマを持って月二回程度学習会を行うほか、毎月第一火曜日には全体の例会を開いています。会の皆さんとは、年齢に関係



▲富士友の会主催の「家事家計講習会」の様子



▲富士友の会の皆さん

なく家族的なおつき合いをしています。惜しみなく自分の持つ生活の知恵や技を教え教わったりととても勉強になります。

暮らしの中のいろいろな問題は家計にあらわれてきます。そのため会では、家計を基本にして生活を組み立てていけるよう学習しています。例えば環境問題につながることも光熱費、食費といった家計面にもあらわれてきます。節電や生ごみをできるだけ出さないような調理の工夫など、家庭でできることを実践するように呼びかけています。最近では会員も働いている人が多くなっていますので、平日の昼間以外にも学習会を開くなど、なるべく参加しやすいようになっています。今後も衣食住の基本的な技術を実習できる公開講習会などを開催して、皆さんに生活学習の輪を広げていきたいですね」と話してくれました。



「チャレンジド・ふじ」代表

まさつぐ 渡辺 雅嗣さん
(今泉)



チ チャレンジド・ふじは、昨年八月に設立した富士市で初の障害者ための自立生活センター。ここでは、さまざまな障害を持つ人たちが、地域で自立した生活をするため、仕事のための訓練を行うほか、障害者同士が交流する場となっています。

渡辺さんは、脳性麻痺により重度の障害を持ち、移動手段は車いすで、その乗りおりや段差など日常生活での介助が必要な状態です。自分の意思で自分の時間を管理できる「自立」を目指し、この十一月からひとり暮らしを始めました。

「チャレンジド・ふじ」へ設立から積極的にかかわり、代表を務める渡辺さんは、「開設のきっかけは、以前、自分が三島にある自立生活センターに通う中でいろいろな経験が得られたというのと、地元で自立を願っている皆さんの希望にこたえ

たいと思ったことからです。開設して一年以上たちましたが、もっと多くの皆さんにセンターのことを知っていただき、利用してほしいと思っています。

障害者自身が納得して決めた生き方で生きていくことが『自立』ではないかと考えています。それぞれの障害により自立の方がいろいろあると思いますが、私にとっての自立への第一歩としてひとり暮らしを始めました。このことが自立したいと思っているほかの皆さんの励みになればと思います。しかし、ひとり暮らしに当たっては、介助がどうしても必要です。特に早朝と夜間に身の介助をしていただけるボランティアを募っています。また、友達として会話をしてくれる方も来てほしいですね」と話してくれました。

問い合わせ 「チャレンジド・ふじ」 ☎ 五五四一〇六〇〇